



倉田春彦のFP通信

キーパーソンのためのお金のはなし
「Carpe diem」

for Executives



「いまを生きる」という 1989 年に公開された米映画(第 62 回アカデミー賞脚本賞受賞)があります。舞台は、校長の厳格な指導のもと受験に取り組む全寮制の男子進学校。

そこに新たに赴任してきた、同校の卒業生でもあるジョン・キーティング先生(ロビン・ウィリアムズ)が、生徒たちへ

に向かって「Carpe diem(カーペ・ディエム)」と呼びかけます。

「Carpe diem」とは古代ローマの詩の一節で、「今を生きろ」「今を掴め」「今という時を大切に」といった意味です。

最初は戸惑いを見せる生徒たちでしたが、やがてキーティングの考えに刺

激され、規則や親の期待に縛られない、自由な生き方に目覚めていきます。



「下ごしらえと今という時」

人は、いま実際に貧乏または不幸であることよりも、将来の見通しや先行きが不透明なことの方に、より大きな不安を感じると言われます。



だからでしょうか、私たちは目の前の欲求や欲望に目をつぶり、将来に備えて勉強をし、いい会社に就職しようとし、貯蓄や自己啓発に励みます。明日以降もずっと元気で活躍したいから、健康や食事に気を使います。つまり、将来の下ごしらえをしています。

しかし、今より将来のことにばかり目が向いて、多くの時間や労力をそちらに傾け過ぎてはいないでしょうか。「今を生きる」「今という時を満喫する」

ことが疎かになっていませんか。

「将来の下ごしらえ」と「今を生きる」のはどちらも大切です。一度きりの人生ですから、将来のことに気を取られすぎて、本当にやりたいことができていない、人生のこの瞬間を満喫できていないとしたら、キーティングの言葉を引くまでもなく、もったいないですね。

「全力投球するために」

でも、将来への下ごしらえが十分でないと不安です。そんな気がかりなことを抱えたままでは、本当にやりたいことに全力で取り組めません。今どんなことに不安を感じていますか？気がかりなことがあれば、私にご相談ください。

後顧の憂いなく、本当にやりたいことに全力投球していただけるよう、保

険のプロの立場から、皆さまの将来の下ごしらえをお手伝いします。



こんな時は私までご連絡ください

意識的に目や眉を表情豊かに

風邪にインフルエンザそして花粉症とマスクの季節が続きます。そこで今回はマスクのマナーについて考えてみたいとおもいます。



マスク着用については様々な意見や声があり、どんな時でも通用するこれが正解というものはありません。しかし、ビジネスシーンにおけるマスク着用の基本を頭の片隅に入れておくと、いざという時にお役に立つかもしれません。

「マスク着用の＋とー」

ところで、マスクを着用したままの人に違和感や不快感を持った経験はありませんか。そうした違和感や不快感の原因には、①表情が読み取れず、意思疎通が図りにくい。②言葉が聴き

取りにくい。③体調不良はマイナスイメージに繋がる。などがあります。

一方で、一般的には体調が悪く咳やくしゃみが出る時は人にうつさないようにマスクをするのが常識です。体調が悪いにも拘わらずマスクを着用せずに人と接した場合、相手から配慮がないと思われてしまいます。

ビジネスの大事なシーンでは、どうしたらいいか悩んでしまいますね。

「ビジネスシーンでの基本」

ビジネスマナー上は、人と接する場面でマスクを着用するのは良いこととは言えません。体調が悪い時には症状を抑える薬を服用したり、代理の人に代わってもらうなどの対策を講じることが必要です。

それでもやむを得ずマスク着用を選択することもあります。その場合は「失礼とは存じますが、万一風邪をうつしてしまうといけませんのでマスクを着けさせて頂きます。」とか「花粉症が酷くてお見苦しいのでマスクを着けてお

話してもよろしいでしょうか。」など一言断ってから着用することをおすすめします。

「ひと工夫」

マスクを着けた時は顔の表れている部分が少ないため、必然的に相手に表情が伝わりにくくなってしまいます。無表情の人とは話しにくいものです。表情もコミュニケーションの一つ、意識的に目や眉を表情豊かに動かしてみてください。

また、口元が隠れるため、言葉が聴き取りにくくなりがちです。相手に言葉が届いているか確認をしながらいつも以上にはっきりと話すように心がけましょう。

一見マイナスに見えるマスクですが、配慮次第では、もしかしたらプラスに変え好印象を持ってもらうことができるかもしれませんよ。



【講師紹介】茂木 ゆみ (Excellent Heart 代表)

国内航空会社にグランドスタッフとして通算 17 年間勤務。皇族、国会議員、大手企業トップ等の VIP 接遇を 4 万回以上経験する。現在は企業向けのマナー講師、個人向けの品格アップ・パーソナルコンサルタントとして活動中。

column『日本の1日』～1日の様子で見る日本の変化～

日本で1日に起こる出来事の数を探った「日本の1日」(平成 29 年版厚生労働省白書)によると、1日に生まれるのは 2,669 人、亡くなるのは 3,573 人、人口の減少数は1日当たり 904 人だそうです。

総人口数を考えるとそんなものかとも思えますが、904 人という数字だけをじっと見つめると、日本の人口減少

のスピードを実感できます。なお、平成 22 年版厚生労働省白書では、1日当たりの人口減少数は 197 人でした。

一方、成人の1日の平均歩数は男性 7,194 歩、女性 6,227 歩。男女とも平成 22 年(男性 7,011 歩、女性 5,945 歩)より増えています。こちらは健康志向のあらわれでしょうか。

最後に介護について。1日のデイサ

ービスの利用回数は 470,965 回、ホームヘルパーの利用回数は 711,243 回で、ともに平成 22 年(順に 258,135 回と 484,905 回)より増え、反対に介護をしている人が介護・看護に費やす時間は 40 分と平成 22 年(49 分)に比べて減っています。

(出典)厚生労働白書(平成 29 年版、平成 22 年版)